

## 「AIA リソースルーム活動報告」 2019

### <背景・経緯>

近年、日本に在住している外国人の数は、年々増え続けています。平成30年(2018)末の統計によれば、在留外国人は273万1,093人を数え、前年に比べ169,245人増加しています。このうち、愛知県下に住む外国人は、260,952人で、東京都の567,789人に次いで第2位となっています。

そのような中、地域日本語教室の役割はますます大きなものとなっています。地域日本語教室は、ボランティアによって支えられており、その負担は大きなものとなっています。また、外国人側に目を向けると、さまざまなニーズを持った、多様な外国人たちが、地域日本語教室を頼って集まってきます。そのような状況に対応するため、ボランティアは、日々模索を続けています。

そこで、私たちは、AIAリソースルームとして何か手助けはできないかを検討しました。文化庁の日本語教育に関する見解や、これからの日本語教育に求められていること等を検討すること、ボランティア経験者との話し合いを重ねること等によって、問題を知ることから始めました。

そこから、地域日本語教室のボランティアは、プロの日本語教師ではない方が大半を占めていること、そして、教える仕事の経験がない方も多数いらっしゃることに、日本語文法と学校文法(国語の授業で学んできた文法)の大きな相違等の理由から文法指導法に不安がある方が多いこと等の問題点が挙げられました。また、入管法の改正に伴い、日本語が話せない外国人がさらに増えることが見込まれる一方、多くのボランティアが、初心者への対応に悩んでいることも課題と考えました。

### <1. 「はじめての日本語教え方講座」>

今後、日本語が話せない外国人が増えていくことに対応できるようになるための講座を企画することになりました。特に指導の仕方がわかりにくい、しかしボランティアが必要と感じている、そして初心者にも対応できる、会話中心の指導法である対話法の講習、『はじめての日本語』教え方講座を開催しました。ご指導は、日本語教育の専門家である千葉先生にお願いしました。千葉先生と綿密な話し合いを重ね、講座の計画を考えました。

ボランティア対象の講座には、多くのボランティアに興味を持っていただけ、

応募者多数のため抽選をしなければいけないほどでした。関心意欲の高さを改めて感じました。(→pp. 1-2)

## < 2. 「はじめての日本語」～きいてみよう！はなしてみよう！～>

また、この講座終了後、実践編として、日本語をほとんど理解できない外国人の方を対象とした対話法講座「はじめての日本語」～きいてみよう！はなしてみよう！～を開催しました。この講座では、先の対話法講座修了者の中から希望者の皆さんに、実際に指導者として参加していただきました。

学習者からも多数の応募をいただき、講座の終了時には、学習者から好評をいただきました。またボランティアからも温かい意見をいただき、これからの活動をより良いものにしていけるよう活発な意見交換が行われました。これらの意見を真摯に受け止め、よりボランティアのニーズに応えていくことのできる活動をと考えております。(→pp. 3-10)

## < 3. 「地域日本語教室の訪問記」>

また、一方、地域日本語教室の役割が大きくなる中、ボランティアの皆さんが活動を続けていくために参考になるような情報の少なさ、またボランティア不足、という問題も分かってきました。

そこで、様々な情報を少しでも多くの方に提供していくことを目指し、各日本語教室の連携・共有にも役立つよう、A I Aのホームページに「地域日本語教室の訪問記」を掲載するという試みを始めました。日本語ボランティアの方が他の教室の良い点を共有できると共に、多くの方がボランティアに興味を持って下さるよう、また、興味を持ってくださった方に、より深く地域日本語教室のことを知っていただくことを目的とし、そのような方々が、安心して応募、参加できるよう努めています。

## < 結び >

以下、本年のリソースルームの活動の詳細についてご報告をしたいと思います。そして、これらの活動から得られたことをもとに、反省点を明確にし、改善をはかり、よりボランティアの方々に寄り添っていけるA I Aリソースルームを目指し、努力していきたいと思っております。

## 2019年 『はじめての日本語』 教え方講座

愛知県国際交流協会 リソースルーム

- ◇開催日： 2月23日～3月16日（毎週土曜）
- ◇場 所： 愛知県国際交流協会（A I A）
- ◇講 師： 千葉月香（名古屋大学大学院 博士課程）
- ◇出席者： 約40名（愛知県内のボランティア団体所属）
- ◇第1回～第4回の講座のテーマ：
  - ① 日本語教室の「型」と地域の日本語教育にかかわる人材の専門性
  - ② ボランティアと学習者の関係性
  - ③ ‘Can-do statements’ を使った教室活動1
  - ④ ‘Can-do statements’ を使った教室活動2

### ◇第1回の概要

- 1) 教室の違い：「学校型」か「地域型」か？  
教授者、学習者の多様性の程度や学習期間の自由度に違い
- 2) 教育方法の違い：「積み上げ型」か「対話型」か？  
「対話型」（行動・体験型）は表現・文法よりも内容重視  
例）自分の趣味を言える：「趣味は釣りです」「ゴルフです」  
代入練習は不要（本当のことでないから）
- 3) ボランティア教室は「地域型」かつ「対話型」が多い  
ワークショップでの意見交換の結果もそれが裏付けられた

### ◇第2回の概要

- 1) 対話型学習活動  
⇒参加者同士が自分の本当のことを伝え合い、人間関係を築く  
⇒「進行役」（コーディネーター）と「パートナー」の役割
- 2) 主体学習と自律的な姿勢  
⇒自分の学習の計画、実施、評価に責任をもって管理し、学習する過程  
⇒自律によって学習のPDCAができることがポイント
- 3) 自律のための Can-do statements（能力記述文）とは…  
⇒ことばを使う行動をする場面を具体的な短い文で示したリスト  
例）相手の言いたいことがわからないとき、聞き返せる  
電車、駅、デパートなどのアナウンス（放送）がわかる

#### ◇第3回の概要

- 1) 日本語能力を測る基準…  
⇒「何を知っているか」から「何ができるか」（行動）へ
- 2) Can-do statements  
言語行動（言語を使う行動）であることが最重要  
×例：「て形」が作れることは、知識であって行動ではない。  
○例：周囲の人にわからないことを尋ねることができる  
⇒N4レベルの文法を知っている、という考え方はしない。  
⇒言語行動を基にするため、「初（中）級文法・語彙」の概念はない
- 3) Can-do statements と対話型（教室）活動  
対話型活動はリアルな会話を繰り返し行う。  
自己紹介や経歴、趣味、仕事など日常会話レベルのトピックを増やす。  
「対話型活動が積み上げ型よりも優れている」とは言えないが、  
「積み上げ型一辺倒はよくない」ということは言える。  
【資料】国際交流基金 みんなのCan-do サイト  
<https://ifstandard.jp/cando>

#### ◇第4回の概要

- 1) Can-do statements を積み上げ式の教室で行う場合、  
前半は積み上げ、後半はCan-do statements が現実的
- 2) Can-do statements 準拠のコンテンツ
  - ・『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案  
⇒文化庁作成（全5冊）
  - ・とよた日本語学習支援システム「対象者判定試験」
  - ・『まるごと』（[marugoto.org/about/](http://marugoto.org/about/)で検索、ダウンロード可能）
  - ・『できる日本語』（[dekirunihongo.jp/](http://dekirunihongo.jp/)で検索、ダウンロード可能）  
⇒使えそうなもの、自分たちの教室に近いものを探すとよい。  
⇒JLPT はCan-do ベースで問題が作成されている。
- 3) その他  
Can-do statements を採用する場合、教室でリーダーシップをとれる人が必要。学習支援者の負担も大きい。全員がボランティア、という教室には向いていない。

以上

# はじめての日本語～きいてみよう！はなしてみよう！～

## ○授業の流れと風景

トピック毎のタイムスケジュール 1トピック当たり1時間30分

<例>自分の家族を紹介する

① 00:00～00:05 資料、トピック確認、必要に応じてモデル提示

② 00:05～00:10 Can-do statements に自己評価  
日本語と母語で書かれた評価表に記入する。母語 OK。

③ 00:10～00:12 進行役のモデル提示  
進行役が自分の家族の写真を見せながら、家族を紹介する。  
「リアル」であることが大切。(架空のモデルケースではない)



▲モデル提示

④ 00:12～00:25 活性化、対話  
サポーターと話しながら、自分の家族を紹介できるようにする。  
文法にこだわらず、相手にリアルに伝われば良い。  
必要に応じて、資料や写真を使用する。スマホ利用も。

⑤ 00:25～00:40 グループを変えて対話 (慣れるための練習)  
別のサポーターと同じ内容で話す。



▲活性化、対話

⑥ 00:40～00:55 再度グループを変えて対話 (慣れるための練習)  
また、別のサポーターと同じ内容で話す。

⑦ 00:55～01:15 交流タイム (1対1でより多くの人と話す)  
全員立ち上がり、複数の違う相手と家族を紹介し合う。  
(今回は7人～8人と話したら着席)



▲交流タイム

⑧ 01 : 15～01 : 25 振り返り、Can-do statements に自己評価、感想  
サポーターは見守る。母語で記入しても OK。

⑨01 : 25～01 : 30 次回のトピックスの予告

## はじめての日本語～きいてみよう！はなしてみよう！～ で使用したワークシート、ふりかえりシートについて

『はじめての日本語』講座で使用した教材は、他の参加者との対話をするときに書き込むワークシートと、それぞれのワークシートに対応した自分自身の日本語能力やその日の活動をふりかえるために使う学習のふりかえりシートの二つで、それぞれ、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語の5言語に対応しています。

ワークシートに含まれるトピックは以下の通りです。

1-1 自己紹介	1-2 わたしの1日
2-1 家族	2-2 住んでいるところ
3-1 食べ物	3-2 料理
4-1 年中行事	4-2 年中行事の思い出
5-1 出身地	5-2 旅行
6-1 休みの日	6-2 行きたいところ、したいこと
7-1 買い物	7-2 おすすめの店
8-1 勉強のまとめ(1) スピーチの準備	8-2 勉強のまとめ(2) スピーチとふりかえり

概ね1時間30分で1つのトピックを扱うよう考えられているので、今回の講座では、3時間で二つのトピックを使用して学習しました。

1日目は、「1-1 自己紹介」と「5-1 出身地」。

2日目は、「2-1 家族」と「2-2 住んでいるところ」。

3日目は、「3-1 食べ物」と「3-2 料理」。

4日目は、最終日でしたので、「8-1 勉強のまとめ(1) スピーチの準備」及び「8-2 勉強のまとめ(2) スピーチとふりかえり」を使用して学習しました。

どのトピックからでも、どんな順番でも扱える教材ですので、教室の状況に合わせて、トピックの順番を変えて扱うことができました。また、必ずしもすべてのトピックを扱わなければならないわけではなく、教室参加者の興味関心に合わせて取捨選択することもできます。

次にワークシートの使い方とふりかえりシートの使い方を紹介します。

# ワークシートの使い方

1-1

- 今日のトピックを確認します。
- 翻訳や絵がついていきますので、今日どんな話をするのか、想像を膨らませます。



- 他の人と話したとき、その人のことではじめて知ったことや、はじめて知ったことばをメモします。
- 自分の本当のことではないけれど、今日のトピックや今日話した内容に関心があることを書いておきます。
- ディクテーションのように他の人が話したことをすべて書き留める必要はありません。

一月一日名前

1-1

Self Introduction  
Jiko-shookai  
じこしょうかい 自己紹介



(英語)

1

Preparation for the topic you want to talk about. Note down the words in your own language at the drawing or chat below. Talk with the supporters and write down the Japanese words you want to learn.  
トピックについて自分のことを話すための準備をします。下の図・表などに自分のわかる言語で話したいことをメモしたり、絵で表したりしましょう。サポーターと話しながら、自分が覚えたいと思った日本語(単語)と意味を書きましょう。

2

Form pairs or groups and talk about yourself while pointing at the drawings or pictures in 1. Note down the things you understand from the person you talked with.  
グループやペアになって、1で描いた絵や図を指しながら自分のことを話しましょう。相手についてわかったことをメモしましょう。



3

Write about the topics you talked about in Japanese. You can write in Romaji, Hiragana or Katakana.  
トピックについて話したことを日本語で書きましょう。ローマ字、ひらがな、漢字どれでもいいです。



1

- 今日のトピックについて基本的な情報を整理して、話す準備をします。
- 話したいことを自分がわかることばやイラストで書きだします。
- 日本語で何というかわからないときはサポーターに聞いて、確認します。
- 今日のトピックに関する一般的な語彙を確認するのではなく、学習者自身が話すために必要な語彙確認するのが目的です。



- 1で整理したことを踏まえて、今日のトピックについて、自分のことを人に伝えるための日本語をメモします。
- 学習者が自分のレベルに合わせて、あとで他の人に伝えるとき、自分がわかるようにメモをします。
- 表記はローマ字、ひらがな、カタカナ、漢字どれでもいいです。

# ふりかえりシートの使い方

- 今日のトピックを確認します。
- 翻訳や絵がついていますので、今日どんな話をするのか、想像を膨らませます。

1-1 Self Introduction Jiko-shookai じこしょうかい 自己紹介 月 日 名前 (英語)

どれかに○をつけましょう!

😊 Easily be done 簡単にできる    😊 Can be done できる    😐 Not really possible あまりできない    😞 Cannot be done 全くできない

How was the class today? Write down in your own language. 今日のクラスはどうでしたか? 自分のわかることばで書きましよう

Can you do the following below in Japanese? (日本語でできますか?)

1 Introduce your name and country (自分の名前、国籍などを伝える)

2 Write your own name in Hiragana, Katakana or Kanji (自分の名前をひらがな、カタカナ、漢字のどれかで書く)

3 Listen and understand other people's self introduction (他の人の自己紹介を聞いて理解する)

Before class (クラスの前)    After class (クラスのあと)

😊😊😊😊    😊😊😊😊

-----

-----

-----

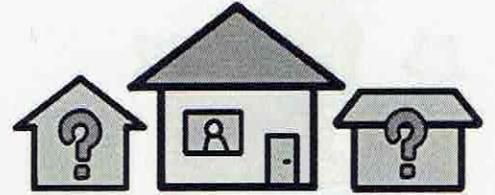
- 今日のトピックに関するCan-do statementsです。
- 今日の教室でどんなことをするのか、具体的な行動の形で示しています。

- 今日のトピックのCan-do statementsに対して、クラスの前とクラスの後に自己評価を行います。
- よくできるときは「4」、ぜんぜんできないうときは「1」にチェックします。
- ここは自己評価を行いますので、学習者自身の直感でかまいません。
- 無理に評価を上げたり下げたりする必要はありません。
- もし可能であれば、自己評価をしたあとで、なぜそのように評価したのかサポーターと話し合えると、学習者の様子がわかります。

- Can-do statementsの自己評価をクラス前とクラス後と比較して、どのように変わったか、また、その理由を学習者自身が記録します。
- 自分の学習のふりかえりのために行いますので、日本語ではなく自分が分かることばで、詳細に記入することが必要です。
- 書き終えたあとに、どんなことを書いたのかサポーターと共有することも効果的です。



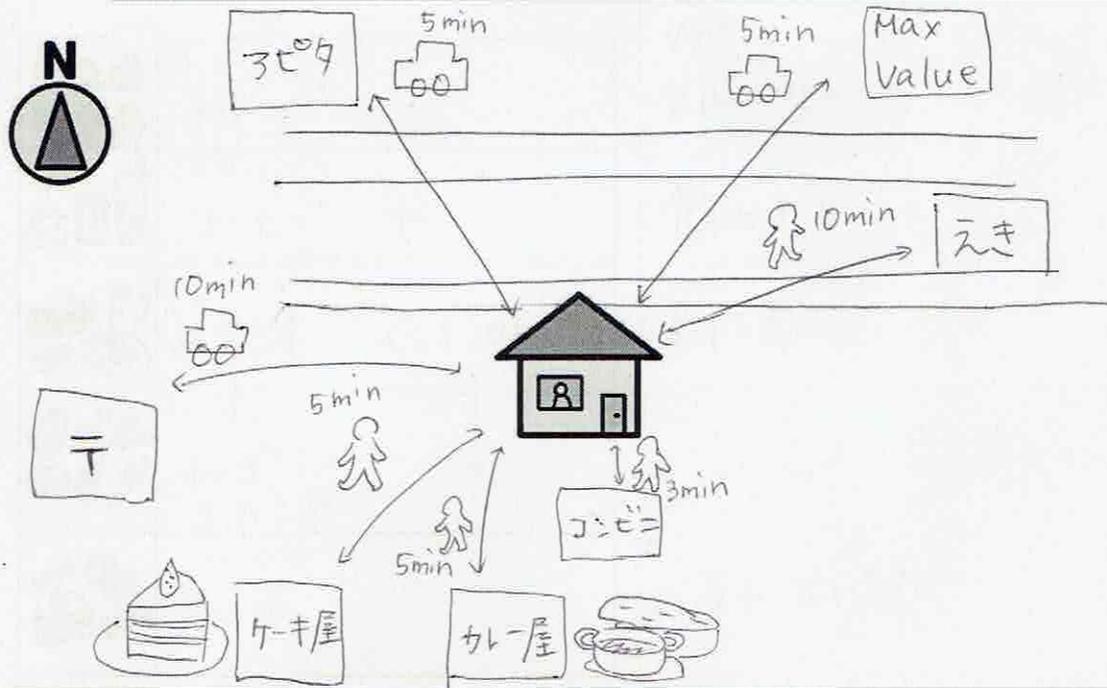
Place You Live  
Sunde-iru Tokoro  
すんでいるところ 住んでいる所



1

Preparation for the topic you want to talk about. Note down the words in your own language at the drawing or chat below. Talk with the supporters and write down the Japanese words you want to learn.

トピックについて自分のことを話すための準備をします。下の図・表などに自分のわかる言語で話したいことをメモしたり、絵で表したりしましょう。サポーターと話しながら、自分が覚えたいと思った日本語(単語)と意味を書きましょう。



2

Form pairs or groups and talk about yourself while pointing at the drawings or pictures in 1. Note down the things you understand from the person you talked with.

グループやペアになって、1で描いた絵や図を指しながら自分のことを話しましょう。相手についてわかったことをメモしましょう。



3

Write about the topics you talked about in Japanese. You can write in Romaji, Hiragana or Katakana. トピックについて話したことを日本語で書きましょう。ローマ字、ひらがな、漢字どれでもいいです。

うちの近くに馬場があります  
歩いて10分です。(いつも使います)  
うちの近くにケーキ屋とインド・ネパールの  
レストランがあります。歩いて5分です。

(ときどき行きます)

スーパーがあります

車で10分です。



## 『はじめての日本語』講座<ふりかえりと次回予告>

### ◇学習者のアンケート結果

- 参加人数：34名／アンケート提出 11名（アンケートは第4回実施）
- 出席率：第1回（61%）第2回（50%）第3回（14%）第4回（35%）  
※第3回は台風のため
- 参加者国別：（中国 14、フィリピン 4、インドネシア 3、トルコ 2、ブラジル 2、韓国 2、オーストラリア 2、ベトナム 1、モロッコ 1、台湾 1、インド 1、パキスタン 1）

### 1 この教室をどこで知りましたか？

- ア プラザにほん語教室…2名
- イ インターネット…2名
- ウ ちらし…4名（あいち国際プラザ、区役所）
- エ その他…2名（いろは日本語の会）

### 2 この教室で日本語は上手になりましたか？（重複 1名）

- ア とても上手になった…6名
- イ 少し上手になった…6名
- ウ 変わらない…0名

### 3 (1) この教室に満足しましたか？

- ア 良かった…11名  
<理由>
  - すごく教えてもらって、楽しかった。
  - 会話も聞き取りも沢山できた。いろんな人が話すので、知識の幅が広がった。
  - 沢山勉強して、少し上達した。
  - いろんな人に会って、いろんな勉強をしたので、良い所でした。

イ 普通…0名

ウ 悪かった…0名

(2) 良かったことを書いてください。

- 友達が沢山できました。沢山のひとと話ができました。
- 沢山話せたので良かったです。先生は親切でした。
- このような日本語教室がもっと開設されると良いと思います。
- この教室に参加することは、コミュニケーションのための日本語会能力を向上させる良い機会だと思う。日常生活でこのような機会があまりないので、このような活動が増えると良いと思う。

- いろんな国の人があります。他の国の文化が分かります。このクラスは楽しいです。いろいろなことを勉強しました。
  - 生徒への接し方が良かった。私たちがあまり知らないことについての説明の仕方が良かった。特に文章を日本語にするのにどうしたらいいかについての教え方が良かった。
  - ここは本当に楽しい。
  - この教室で日本語が上手くなりました。
  - このような教室をもっと開いてほしい。
  - 沢山話せて、沢山聞けた。
  - 友達と話せた。少しコミュニケーションを取れた。とても楽しい時間を過ごせた。
  - 良いことを勉強した。
- (3) 悪かったことを書いてください。
- もっともっと勉強したかったです。時間が足りなかったです。
  - 適切な文にするためにはどんな言葉を補えばいいのかのように、文章を作る際に分からないことがあった。
  - 教えてもらった日本語の情報とは別に、生徒として参加できてとても良かった。
  - 十分な語彙がないと、特に聞き取りは難しい。
  - 日本語で話すのは少し難しかった。
  - 次はないのが残念です。

#### ◇2020年の予定

##### 1 リソースルーム初期日本語指導講座

◇開催日：2/19、2/26、3/4、3/11（全4回）

◇場 所：あいち国際プラザ 2階 アイリスルーム

◇時 間：午後1時から午後4時30分まで

◇講 師：千葉月香（名古屋大学大学院 博士課程）

◇参加者：リソースルームボランティア及び県内日本語教室ボランティア30名程度

◇内 容：初心者向けの日本語とはどういったものか、どのような教授法があるかなどについての講義やワークショップ。また、今年度実施した「はじめての日本語」講座についての映像などを使った紹介、実際の教え方を体験するワークショップなど。

##### 2 「はじめての日本語」講座（学習者向け）（仮称）

◇開催日：令和2年7月から8月頃

◇場 所：あいち国際プラザ 研修室

◇内 容：千葉月香氏に進行役として全体統括、進行をお願いし、ボランティアが個別グループでの日本語学習指導を行う。

◇参加者：日本語学習歴の少ない外国人とボランティア：リソースルームボランティア及び初期日本語指導講座受講者から募ったボランティア10名程度